

こころだより

特集

精神保健指定医とは

～病院理念～

県民の心の健康を支える
質の高い医療の提供



病院機能評価に合格しました！

病院機能評価とは、県民のみなさまが安心して良質な医療を受けられるよう、4つの領域から構成される多数の評価項目を用いて組織全体の運営管理および提供される医療サービスについて評価するものです。今回2021年までの認定を受けました。



- * 平成 29 年を迎えて
- * 認知症疾患医療センター合同研修会のお知らせ
- * バレンタインにおすすめ！冬の定番スイーツレシピ♪
- * 診療のご案内



編集：広報委員会
発行：山口県立こころの医療センター
山口県宇部市東岐波 4 0 0 4 - 2
TEL：0836-58-2370 (代表)

精神保健指定医とは

精神科医 みよし 三好 としひこ 俊彦

近年はうつ病の増加やストレスチェック制度などの取り組みもあり、精神科が注目を集めています。精神科の印象も昔とは変わってきており、以前より敷居が低くなったと言われることが多くなっています。受診しやすくなっていることは、昔は一人で悩んでいた人にも適切な医療を提供できる機会が増え、とても良いことと思います。私は精神科医療に携わることで、また精神保健指定医（指定医）として働く中で、他科と大きな違いを感じるがあります。この度、他科との違いや指定医について述べたいと思います。



医療の基本的な流れは、患者さんが病気になった時に、それを治療するために自ら（または助けを借りて）医療機関に受診し本人の同意の下で療養します。例えば骨折したときに外科を受診し、手術を自らの意志で受け、リハビリに取り組むといったことです。また、Shared Decision Making (SDM) という考えもあり、医療側と患者さん側が科学的根拠を共有して一緒に治療を選択するものです。つまり一つの病気にはたくさんの治療方法がありますが、そのメリット・デメリットを理解した上で一緒に治療を決めていきます。このようなスタイルは精神科にも言えることです。

しかし、精神科の場合はそれとは違う治療形態があり、それは病気の特徴から生じます。精神科が治療する主な病気としては、うつ病や双極性感情障害、統合失調症、神経症などがあります。病状が悪化すると偏った考えに支配されることがあります。例えばうつ状態では、自分を責めてしまう、治療しても治らないと思ってしまうことがあります。治療すると病状は改善し「なぜそんなことを思ったのだろう」とご本人も思いかえす事が多いですが、病状悪化時にはその正しい判断が出来なくなります。精神科では通常の入院（自らの意志に基づく任意入院）の他に、医療保護入院等の入院形態を用いることがあります。これは本人が病気によって正しく病気や治療を判断することができない時に行う入院です。本人にとっては強制的な入院になります。この判断を行うのが指定医です。この入院は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）という、医療と人権のバランスを取る法律に従って行います。また、自傷他害の恐れがある場合に都道府県知事の命令により入院する措置入院にも指定医が関わります。措置入院の場合には退院の際にも指定医の判断が必要です。その他にも入院中の様々な制限等に関して指定医の判断が必要なものがあります。どれも患者様の行動等を制限するため専門的知識での慎重な判断が必要となります。



精神保健指定医は高度な知識や経験により認定される国家資格です。指定医として精神科医療に携わる中で、一時的ではあっても患者さんの自由を直接制限することもあり、とても責任のある業務だと思います。医療の世界は日進月歩で変化しています。今後も最善の医療を提供できるよう、切磋琢磨していきたいです。

平成 29 年を迎えて

明けましておめでとうございます。昨年も皆さまからいただいた多くの温かいご支援に改めて感謝申し上げます。新たに迎える酉（とり）年が、皆さまとご家族にとって、素晴らしい年となりますように心より念じております。

新年を迎えて、今年も決意を新たに、日々を大切に精進して行きたいと思っております。1年後の平成30年は、明治維新150年で、山口県は温故知新の節目の年を迎え、今年はそのカウントダウンの年となります。平成30年6月1～2日には、当院が担当して日本司法精神医学会大会を山口市で開催する予定です。全国からこの分野の専門家が集まる学会のお世話をさせていただく貴重な機会となり、今年からその準備を着実に進めて行く所存です。

日常の臨床では、各職員がそれぞれの役割を担って、協働する体制が向上してきたと実感しています。昨年度から、やわらかあたまサロン、認知症カフェなど専門的なりハビリプログラムがコメディカ

ル部門の主導で順調に定着しつつあります。病気からの回復（リハビリ）に向けたプログラムは、患者さんの療養生活に活力や前向きな気持ちをもたらす、関わる職員にとっても有意義なものとして重視しています。

当院は、理念として「県民の心の健康を支える質の高い医療の提供」を掲げています。心の病気を抱える方々の治療や支援に関わらせていただくことは、一期一会のかけがえのない機会であり、時に苦悩しつつも真摯に向き合って克服し成長する多くの方々の崇高な姿に、私たちが日々励まされ勇気づけられています。

今後とも、医療・福祉・行政・司法の諸関係機関との連携を深めつつ、県全域の精神科医療体制を高めるために、当院に求められる役割を真摯に担って行きます。改善への努力を怠らないためにも、忌憚のないご意見を頂戴できればと存じます。

今年も、どうぞよろしくお願い致します。

院長 かねゆき ひろし 兼行 浩史

研修会のお知らせ

認知症疾患医療センター合同研修会

「若年性認知症の人を支援するために」

日時：平成29年2月12日（日）13時00分～16時30分

場所：山口県総合保健会館2階 多目的ホール

山口市吉敷下東3丁目1-1 TEL 083-934-2200

開会の挨拶 山口県医師会 河村 康明 会長

13:00～14:00 講演Ⅰ 《精神医学の立場から》

「若年性認知症を地域で支えるために」

大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学教室 教授 池田 学 先生
座長 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学 渡邊 義文 教授



14:15～15:15 講演Ⅱ 《神経内科学の立場から》

「若年性認知症の診断と治療」

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 神経内科学 教授 山田 正仁 先生
山口大学大学院医学系研究科神経内科学 神田 隆 教授



15:30～16:30 特別講演 《当事者家族の立場から》

「老老介護4000日、愛の軌跡～高齢社会を強く生きる～」

公開講座 元萩市教育長 陽 信孝 氏
「八重子のハミング」著者



対象：医療・福祉専門職・学生

主催：下関病院、県立こころの医療センター、県立総合医療センター、
泉原病院、柳井医療センター、いしい記念病院

共催：山口県、山口県医師会、山口県神経精神科医会

お問い合わせ：

県立こころの医療センター内
認知症疾患医療センター（橋本・坂本）
TEL: 0836-58-5950

バレンタインにおすすめ！冬の定番スイーツレシピ♪

◎炊飯器で手軽チョコケーキ [栄養管理部]

<1回分の材料>

- 板チョコ（ブラックでもOK） 1枚
- 無塩バター（マーガリン） 40g
- 牛乳 50cc
- 卵 2個
- 砂糖 50g
- ホットケーキミックス 100g
- ココア（砂糖入り） 50g



<作り方>

- ① 板チョコとバターを一緒にレンジで溶かします。（約1分）
- ② ①の粗熱が取れたら牛乳を加え、混ぜます。
- ③ 卵2個と砂糖を合わせて、よく泡立てます。（細かい泡ができるまでよく混ぜましょう）
- ④ ②と③を混ぜ合わせます。
- ⑤ ④にホットケーキミックスとココアを入れてよく混ぜましょう。
（注）ダマはなるべくできないように混ぜるのがベストです。
- ⑥ 炊飯器に指でマーガリン（分量外）をまんべんなく塗り込みましょう。
- ⑦ 炊飯器の中に⑤を流し込みましょう。
- ⑧ 通常の炊飯モードでスイッチオン！！
- ⑨ 炊飯器が保温になったら竹串などを刺して生地がくっつかなければお皿に移します。（注）くっつく場合は再度炊飯モードで加熱します。
- ⑩ そのまま食べてもしっとりおいしいですが、生クリームやフルーツを添えるとなおいですよ！

ちなみに・・・

チョコレートはカカオマス（カカオパウダー）とカカオバターを混ぜ合わせたものに砂糖を加え、加工したのになります。

カカオには

- ・免疫力の強化（ポリフェノール）
 - ・美容効果（ポリフェノールやフラボノール）
 - ・集中力、記憶力向上効果（カカオのフレーバー）
 - ・虫歯予防（カカオパウダー） などなど・・・
- 美容や健康にプラスの効能がたくさん詰まっています。

ただし市販のチョコレートにはたくさんの砂糖が含まれているので、一気にたくさん摂取することで（これらのプラスの効能以上の）マイナスの効能が起こる可能性があるため食べすぎには注意しましょう。

診療のご案内

外来診療担当医

初診		再診				
月	(物忘れ、一般) 兼行 浩史	(一般) 角田 武久	兼行 浩史	藤田 実	磯村 信治	宮野 康寛
火	(児童・思春期、一般) 村田 由紀		加来 洋一	青島 真由	三好 俊彦	
水	(児童・思春期) 加来 洋一	(高次脳) 兼行 浩史	兼行 浩史	村田 由紀	新造 竜也	青島 真由
木	(アルコール依存、一般) 藤田 実	(一般) 新造 竜也	兼行 浩史	加来 洋一	角田 武久	宮野 康寛
金	(物忘れ、一般) 宮野 康寛	(児童・思春期) 青島 真由	加来 洋一	藤田 実		

初診・再診とも予約制となっております。予め電話でご予約されてご来院ください。
外来直通電話：0836-58-2327

交通のご案内



お車 / 山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分
電車 / JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分
バス / 宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約10分

地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波 4004-2
TEL: 0836-58-2370 (代表)
: 0836-58-2327 (外来直通)
FAX: 0836-58-6503



こころの医療センター

検索

<http://www.y-kokoro.jp/>